

## 平成23年度 府立旭高等学校 評価報告書

### 1 めざす学校像

<記入上の注意>

夢と希望を持ち入学する生徒が達成感と充実感を深め、自己の未来を切り開く力を養う学校をめざす。

1. 自主的・自律的態度、協調・友愛の精神を育てる。
2. 自己実現のための実力・判断力・行動力を育成する。
3. 国際化社会に生きる進取の気概に富む生徒を育成する。

### 2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成23年12月実施分]	学校協議会における提言内容																		
<p>回答数：生徒1001人/保護者525人/教職員67人 「よくあてはまる」「ややあてはまる」 の肯定的回答</p> <p>学校に行くのが楽しい (楽しそう)</p> <table><tr><td>生徒</td><td>75.8%</td><td>保護者</td><td>85.9%</td></tr></table> <p>授業はわかりやすい</p> <table><tr><td>生徒</td><td>49.5%</td></tr></table> <p>授業はわかりやすく興味深い</p> <table><tr><td>保護者</td><td>35.7%</td></tr></table> <p>進路や生き方について考える機会がある</p> <table><tr><td>生徒</td><td>71.6%</td></tr></table> <p>進路についての情報を知らせてくれる</p> <table><tr><td>生徒</td><td>72.4%</td></tr></table> <p>家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている</p> <table><tr><td>保護者</td><td>71.1%</td></tr></table> <p>旭高校のどの点に最も注目するか(保護者)</p> <table><tr><td>1位 進路実績</td><td>2位 国際交流活動</td></tr><tr><td>3位 生徒会活動や行事</td><td>4位 教育方針</td></tr></table> <p>学校生活に対して生徒も保護者も比較的満足度が高い。卒業後の進路をしっかりと考えさせる、進路実現を保障できる学力をつけることが引き続き課題である。生徒の時間の使い方を検討し、より充実した高校生活を提供する学校づくりを継続する。</p>	生徒	75.8%	保護者	85.9%	生徒	49.5%	保護者	35.7%	生徒	71.6%	生徒	72.4%	保護者	71.1%	1位 進路実績	2位 国際交流活動	3位 生徒会活動や行事	4位 教育方針	<p>第1回(7/5)(火) <u>学年の取組みに関して</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・メールマガジンに重要書類配布の連絡がほしい。</li></ul> <p><u>教育活動全般について</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・遅刻をせず学校に来るという習慣がつき、友人ができて学校を楽しむ事ができれば成績もあがっていくのではないだろうか。</li><li>・進路指導で学校外の人材を活用した講演等を企画し生徒のモチベーションをあげてほしい。</li><li>・PTA活動に関してより多くの会員に関心をもってもらうのは難しいが今後も考えていかなければいけない。</li><li>・部活動で十分に活動し、切り替えをしっかりと行い学習に取り組む生徒を育ててほしい。</li></ul> <p>第2回(2/1)(水) 授業を見学して(感想等)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・きちんと授業が行われている。</li><li>・生徒は前向きに授業を受けている。</li><li>・寝ている生徒がいたのが気にかかる。</li></ul> <p>平成23年度学校教育自己診断の結果を踏まえて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業について半数の生徒は「わかりやすい」と回答、保護者は「わかりやすい」とは思っていない。教員のほぼ9割が授業に工夫をこらしていると回答、このギャップの解決と生徒自身の家庭学習時間の確保に向けて取り組む必要がある。</li><li>・学校から家庭への連絡は満足される結果である。</li><li>・大阪の国際教養科でトップをめざす学校となるような意気込みで先生方に頑張って生徒を指導してほしい。</li></ul>
生徒	75.8%	保護者	85.9%																
生徒	49.5%																		
保護者	35.7%																		
生徒	71.6%																		
生徒	72.4%																		
保護者	71.1%																		
1位 進路実績	2位 国際交流活動																		
3位 生徒会活動や行事	4位 教育方針																		

3 本年度の取組内容及び自己評価

	重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	確かな学力への取組み	<p>○平成25年度実施の教育課程編成 12回の教育課程委員会での検討、作業部会での編成案作成作業。 2学期末編成作業の最終段階に至る。 3学期校内の共通理解を図る。</p> <p>○授業改善 1学期 全校生徒による全科目の授業評価実施。 2学期 教員間での授業見学。</p> <p>○EFHS 指定校事業への取組み 英語科で教科指導の研究を行う。 2011年11月10日ラウンド制を取り入れた研究授業と研究協議実施 実力アップ特設レッスンを開設し希望者対象の土曜授業を実施する。 2011年11月18日国際教養科2年生スピーチコンテスト実施。 2011年11月29日1年生全学年の暗唱大会実施 2012年1月28日 English Forum にて生徒による成果発表をおこなう。</p>	<p>○現在の旭高校がめざすべき教科指導に関して各教科の意見を交換し、全体としての理解を深めた。また、普通科、国際教養科ともに国語、社会、数学、理科の単位数が現行に比べて増加した。 編成後の教育課程実施において「考える・自ら学ぶ・発信する」力をつける授業の工夫が課題である。</p> <p>○授業評価の結果 よく理解できる、理解できる 65.8% (前年度 64%) 大いに満足している、満足している 70.6% (前年度 68%) 授業改善の継続がわずかではあるが成果をあげている。次年度も学校全体の共通理解を深め取り組むことが必須である。</p> <p>○英語検定受験者の前年度比3割増 第1回目 148人 第3回目 155人 第1・3回の合格率 (%) 3級 86.5→81.3 準2級 47.8→46.5 2級 7.4%→21.1 基礎的な力を定着させ、さらに高度な学習に対する意欲を高めることができた。 着実な学習の積み重ねと学習への継続する動機づけをより効果的なもののできるよう創意工夫に励む。</p>
取組み②	自己実現の支援	<p>○生活指導部と学年が連携した生徒指導の継続 年間を通じた始業前の校門指導。 個々の生徒の状況に応じた指導。</p> <p>○進路指導部、学年、各教科の連携した進路指導体制の確立 生活や学習に関する調査の実施と結果を活用した指導を実施する。 1年生8クラス大学見学会 10月17日実施。 見学会終了後各クラスで見学大学に関する壁新聞を作成、廊下等に掲示。 2年生夏休みの課題としてオープンキャンパス参加レポートの提出。 2年生全員対象学校別説明会 7月11日実施。 2年生全員対象大学等の模擬授業体験 10月27日実施。 外部講師による校内での講演会実施、土曜日・長期休業中等の講習実施。 3年生対象進路ガイダンス 6月20日から6月24日実施。</p> <p>2012年2月1年生・2年生を対象とした進路希望調査実施、その結果を3月全教職員で共有し次年度に向け進路実現の支援への取り組みを開始する。</p> <p>○行事の質のさらなる向上 行事と学習に対する「メリハリ」のある態度を生徒に呼びかける。 校舎の耐震補強工事の進行と体育祭、文化祭実施の調整を綿密に行い、5月体育祭、9月文化祭を実施する。</p>	<p>○高い目標として「遅刻0の日」を掲げた。朝の遅刻に関しては1学期までに5回、1日での遅刻は2学期までに2日。ただし、いずれも行事日や定期考査の日である。遅刻数は昨年度(25学級)2,607本年度(25学級)1,832で前年度の69.9%とである。学校全体で忍耐強く遅刻指導に取り組み一定の成果をあげている。</p> <p>○ 2年生の学力生活実態調査で平均正解率が39.3%(昨年度2年生36.1%)国語42.1%(+3.9)40.1%(+6)HR、総合学習の時間等を活用した進路、学習への意識づけが徐々に効果を示し始めている。 3年生のセンター受験者数は53人(昨年度34人) 12月22日現在で在校生の4年制大学合格率は40.8% 目標を設定し達成に向けて取り組む生徒を育成する点で成果をあげている。 現3年生(8クラス)の進路状況について： 2011年2月実施のアンケートでは国公立希望5%、私立大学65%であった。2012年1月末で国公立2次受験予定者は3人(約1%)2011年12月22日現在推薦入試合格者のべ人数は238人(昨年143人7クラス) 合格率は近畿大学14.1%→18.6%、関西外国語大学30.8%→44.9%、大阪経済大学21.9%→44.4%、龍谷大学24.2%→27.3%摂南大学57.7%→58.3%と昨年より上昇している。 企業就職希望者は2%(7人)であったが、1月末に最終希望者4人の就職決定が完了した。 進路について「より早い時期から目標を持ち実現にむけて頑張る」ことを意識付け、2年生最終の希望を実現できる指導体制の確立が課題である。</p> <p>○ 体育祭、文化祭ともに達成感を生徒に実感させることができた。5月13日(金)体育祭来場者はほぼ500人、台風12号接近によって実施日が変更になった文化祭では9月4日(日)5日(月)で合計1740人の来校となった。保護者の行事に対する理解を得ることもできた、</p>

<p>取組み③</p>	<p>学校の組織力の向上</p>	<p>○チームとしての底力の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の方向性を見据えた分掌・学年・教科・委員会の効率的な業務。</li> </ul> <p>・「使える英語プロジェクト事業」の学校活性化への活用。</p> <p>    《EFHS 事業》</p> <p>英語検定受験が学校全体の取組みとして校内で実施され協力を得る。</p> <p>英検対策の土曜特設レッスンが開設され、校内受験も可能となった。</p> <p>    《英語活動の支援》</p> <p>2011年7月22日～8月4日</p> <p>イギリスのノッティンガム大学での語学研修に16人参加。</p> <p>2011年7月23日～8月8日</p> <p>オーストラリアのアデレードハイスクール（本校の姉妹校）に20人参加。</p> <p>・次世代への業務の継承。</p> <p>    各教科、各分掌での若手のOJTでの育成。</p> <p>・同窓会主催60周年記念イベントへの協力。</p> <p>    この10年間の学校教育活動の記録を作成するために、校内の60周年委員会を立ち上げる。1学期から記念誌作成に取り組み本年度未完成の予定である。来年度の中学生向け広報誌として10年分の記念誌を編集する</p> <p>2011年11月20日 ツインビルアトリウムのイベントに約150人の生徒が参加する。</p> <p>案内・受付の担当、ステージ部門の出演、会場の準備と片づけを教員の指導のもと行う。</p> <p>卒業生を講師として職業を考える機会を設ける取組みとして、2012年1月17日1年国際教養科の生徒を対象とした「英語を使った仕事」に関する講演会を実施する。</p>	<p>ICTを活用した成績処理や会議のための資料掲示、校内施設の予約と使用状況の把握ができるようになった。</p> <p>校内での一人PC一台体制を活用する取り組みを今後も継続する。</p> <p>成績処理、学年・分掌等の担当者の円滑な引き継ぎに資するICT活用を推進することが課題である。</p> <p>《EFHS》</p> <p>英語科の取組みに対する校内の理解・協力を獲得できたが、学校としての取り組み体制をより明確にすることが必要である。</p> <p>英検対策として特設レッスンが土曜日に15回開講された。2011年6月11日から2012年1月14日まで関西大学非常勤講師の濱本陽子先生による実力アップ特設レッスンに69人が参加した。</p> <p>《英語活動の支援》</p> <p>本年度は夏季休業中にオーストラリアとイギリスの2カ国での海外研修となったが、どちらも参加生徒の高い満足を与える研修となった。</p> <p>次年度は海外での語学研修後の英語学習へのモチベーションの維持と学習の継続を図る。</p> <p>初任者による研究授業を2011年9月22日英語科、2011年11月24日国語科が実施し、研究協議により他教科の意見を聞くことができた。</p> <p>研究授業の実施に関してより多くの教員が参加できるスタイルを考える必要がある。</p> <p>この10年間をまとめ現在の旭を中学生に知ってもらう広報誌の作成にチーム力の良さで取り組めた。次年度もチーム力で広報に取り組む事が必須である。</p> <p>同窓会の記念イベント実施の準備については同窓会と学校の調整が円滑にいかない状況もあったが、校内の関係部署がチームの機動力を活かしイベントを支援することができた。同窓会の実行委員会メンバーから一定の評価を得ることができた。</p> <p>旭高校の卒業生の話聞く会として60周年記念イベント会場が設けられたが、当日の参加者に関する情報提供を徹底させることができなかった。生徒のニーズと情報提供をうまく調整して卒業生の話聞く機会を今後も提供できる方策を検討し、同窓会も含めた外部との連携を学校の活性化に資することが課題である。</p>
-------------	------------------	---	--